

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270400759		
法人名	社会福祉法人祥仁会		
事業所名	グループホーム貝津		
所在地	長崎県諫早市貝津町2239-2		
自己評価作成日	令和6年9月11日	評価結果市町村受理日	令和6年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、協力医である西諫早病院との連携により、定期的な受診や緊急時の対応等、入居者様やご家族様に安心して日々の生活を送っていただけています。又、今年度より、同法人内の連携室長(看護師)による、定期的な訪問や施設内でのコロナ感染時には、ゾーニングや職員に対する指導や助言等を下さり、大変心強く、職員も安心して働けるといった声もあがっております。施設内は、日々の清掃やメンテナンス、季節ごとの壁飾りで明るく、清潔で、季節を感じていただくことが出来ます。介護理念にもうたわれてるように、「家庭的な雰囲気の中で共に毎日を楽しく、安心してその人らしい暮らしができるよう援助する」を実現すべく、様々なアイデアを出し合い、入居者様に楽しく過ごして頂けるよう職員一同、日々取り組んでおります。又、施設内での勉強会や新型コロナウイルス感染症も5類となったことで今まで控えていた外部研修の機会も増やし、スキルアップにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「家庭的な雰囲気」を理念に掲げ、明るく居心地の良いホームを目指し日々の業務に取り組んでいる。自治会に加入し、回覧板の受け渡しや、日常的に地域住民と挨拶を交わすなど地域との繋がりを深めている。ホームの協力医療機関と連携を図り、入居者の健康観察や、緊急時の対応などに努めている。また、毎月家族へ入居者の受診結果の報告や、日々の様子を収めた写真を配布し、ホームでの暮らしを伝えることで、家族の安心へと繋がっている。裏庭の小さな菜園では、入居者と職員と一緒に芋やトマトなどの野菜を育て、収穫して食卓に並べており、入居者の楽しみの一つとなっている。ホーム内は明るく清潔感があり、壁面には季節感のある飾りつけを行っている。日々の業務で職員同士が相談や気づき話し合いながら取り組み、協力し合うことで、職員もやりがいを持ちながら働きやすい職場環境となっていることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念をホーム内に2か所掲示している。職員一同、内容を理解し、グループホームの役割、地域との関わり方を再確認してもらった。	当ホームは理念をホーム内の2か所に掲示し、毎月の職員会議で唱和することで、理念を意識しながら入居者に接することができている。職員は入居者と一緒に行動する事を心がけており、より家庭的な雰囲気があり、入居者も生きがいを持って生活している事が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属しており、回覧板の受け渡しや、運営推進会議への町内会長や民生委員の方々に参加していただく事で、グループホームの活動に理解を深めてもらっている。	ホームとして地域の町内会に属しており、地域の草取りへの参加や、ホーム周辺が通学路となっている事から地域住民と日常的に挨拶を交わすなど交流している。町内行事である「かたらんば」などにも参加したり、介護に関する相談も受けている。近隣住民から野菜の差し入れもあり、関係は良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の包括支援センターによる「語らんば」に参加しており、会の中で、認知症に対しての地域の方からの相談など受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、対面での運営推進会議を行うこととなった。ホーム内での活動や研修報告等を行い、意見を求めている。ご指導いただいた内容については、次の会議の議題とし、問題解決に努めている。	運営推進会議には、入居者、家族、町内会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等が参加し、ホーム運営の報告を行うと共に、疑問や要望等に対して、その都度対応を行っている。会議に参加できない家族には議事録を送付し、情報の共有に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅医療介護「かけはし」からのアンケートや研修会にも参加している。また、運営推進会議にも毎回参加して頂くこととなっている。今年度から「さわやか相談員」の受け入れも行うことになっていたが、コロナ感染症の流行もあったことから、現在は実施していない。(今後、受け入れを行う予定)	管理者は市が主催する在宅医療介護「かけはし」へ参加し、行政や医療、地域等と情報交換・共有を密に行っている。コロナが5類になった事で市のさわやか相談員(介護相談員)の受け入れを再開し、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、月に一度のスタッフ会議で目標に対しての評価を行っている。年2回以上、身体拘束廃止の勉強会や研修にも参加している。	年2回、身体拘束及び高齢者虐待防止の研修会を開催し、職員が参加している。毎月の職員会議で身体拘束廃止に関する目標に対し、職員各自が評価を行う事で身体拘束に対する意識づけを図っている。センサーの設置は家族の同意のもとに行い、入居者の行動を迅速に察知するために使用している。職員はスピーチロックにも配慮して支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上高齢者虐待防止の勉強会や研修会にも参加している。又、入居者に対して虐待がないが注意し合える環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進委員会の議題として同法人内の社会福祉士による権利擁護に関するパンフレットを用いた談話や事例等を学ぶ機会を作っている。又、職員が自主的に閲覧できるようなパンフレットを置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご家族と本人様と面談を行い、利用者の手引き等を用いて説明している。又、ご家族の意向なども相互に理解できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置している。又、ご家族の面会時や運営推進委員会の資料に対して、意見や要望なども伺うようにしている。	職員は入居者と日常会話を行う中で意見や要望などを把握している。家族には輪番で運営推進会議に参加してもらうことでホームへの意見・要望の把握に努めている。運営推進会議に参加されない家族には、面会時の会話や、メールなどで交流を図り、意見や要望を聞き取るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務内容内で職員からの意見や要望など聞き取りを行っている。内容によっては管理者より事務長へ報告し、改善策を検索している。又、申し送りノートの活用や、月1回のスタッフ会議で問題を上げ、全職員で情報を共有し解決できるよう取り組んでいる。	管理者は職員との個別面談の機会は特に設けていないが、日常的な業務中で気軽に相談し合える関係を構築している。職員の資格取得に対しては、業務として研修に参加したり、研修費用をホーム側で負担するなどバックアップ体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を吸い上げ、業務改善や環境整備に取り組んでいる。年に2回、自己評価を行い、賞与に反映させている。又、年に1度の意向調査を行い同法人内で希望する部署があれば移動できるシステムもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症も5類へ移行となり、外部研修へ参加する機会を増やしている。又、施設内で毎月テーマを決め勉強会を実施し、能力の向上に努めている。研修後は研修報告書を提出してもらい、運営推進会議の資料として載せている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、意見交換などを行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族に面談し、意見を伺い初回ケアプランを作成している。又、定期的に本人様やご家族への意向や要望など伺い、各担当者からの評価等でケアプランを反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族が困っていることや不安なこと、要望等を伺い、入所後ホームでの生活やご家族の思いが合致し、ずれがないようにコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	共通の認識でサービスの提供ができるよう話し合う場を設け、本人の思いに沿ったケアができるよう全職員で取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム貝津の理念である「家族的」を目指し、本人の思いを取り組み、個性を活かしながらその人らしい生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月よろこび新聞、しあわせ新聞を発行し、入居者様の施設での様子をご家族に見て頂くことで、安心感を得ている。その他にも電話等や面会時に近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の中で、昔のことやアルバムを見て、その方の生活歴を思い出して頂く。コロナ感染症予防の為、ご家族や知人の面会は玄関先で距離をおいて対応し、コミュニケーションが図れるよう支援している。	入居者との面会に家族だけでなく、友人・知人や以前の職場の仲間等も来訪している。入居者が住んでいた地域にドライブに行ったり、花見や鯉のぼり見学に行くなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	工作や体操などのレク活動や月の行事などを通して交流を深め、会話を生み出すような働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方も、入所中など状態を確認したり、ご家族からの状況報告を頂いている。希望により、再入所にも繋がっている事例ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に生活の意向を聞き取り、介護計画に反映させている。ご家族にも本人の望む想いを確認している。	入居時に家族へ入居者の生い立ちや生活歴等をバックグラウンドシートに記載してもらい、シートをもとに入居者と会話しながら思いや意向の把握に努めている。把握した情報は申し送りノートや個人記録に記載し、職員全員で共有しながら入居者の意向に沿ったケアの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法として昔の話をお聞きしたり、ご家族から聞き取りを行い理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を活用するように、本人のADLに応じて対応している。年齢や体力をみて休憩時間を作ったり、個別のレクを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議で、入居者様一人一人のケアの見直しや各職員から生活状況などに変化はないか、など聞き取りを実施している。又、担当職員が月に1度、ケアプランの評価を行い、ご家族や本人の要望を踏まえ、介護計画を作成している。	介護計画の見直しは概ね6ヶ月毎に行っており、毎月の職員会議でカンファレンスを行っている。個人記録に介護計画で設定した入居者個々の目標を記載し、職員が目標を確認しながら日常の支援を行い、入居者の意向や状態に応じた支援の実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉や体調、状態の変化など気づいたことも含め、記録に残し、職員間での情報共有に努めている。又、細かな事や見直しなど申し送りノートに記載し、各自、目を通してもらう事で周知できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度が高くなり、今後についてご家族と話し合う機会も増えている。可能な限り、本人やご家族の意向を踏まえたサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染者が増加している中、地域と入居者様との関わりも難しくなっている。今後は、状況を見ながら地域活動にも可能な限り参加できればと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同グループの救急病院、症状に応じた協力医の受診や往診を行なっている。何か急変や心配事があれば、対応の助言を頂くなど関係性を構築している。	入居時にかかりつけ医をホームの協力医に変更してもらうことで、訪問診療や緊急時の対応が迅速にでき、家族の安心に繋がっている。協力医療機関より看護師が定期的に訪問し、入居者の状態確認を行うことで、より迅速で適切な対応が行えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のソーシャルワーカーと連絡を密にし、再入所に向けての準備や情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居されたら意思表示の思いを聞きとり、終末期の確認を行っている。状態の変化や思いに変化があれば何度も話し合い、再確認を行えるようにしている。	現在、ホームで看取り支援は行っていない。入居者の状態が悪化した場合の対応については、入居時に入居者本人及び家族へ説明し、同意を得ている。職員は年1回、地域のAED研修会に参加し、緊急時も落ち着いて適切な対応ができるよう研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時はすぐに話し合いを行い、定期的に緊急時対応の訓練を行うようにしている。急変や事故の詳細を全職員で共有する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に防災訓練を行っている。火災予防のための火気の取り扱いに注意し、周辺環境の見回りも行う。非常食の確保、持ち出し物品の確認を定期的に行っている。	避難訓練は入居者も参加して行なっている。避難訓練を行う際には、地域住民に回覧板等で周知を図っており、有事の際の協力体制を構築している。廊下にはハザードマップや避難経路等を掲示し、職員が日々の業務を行う中で意識づけができるよう取り組んでいる。	災害時の一時的な避難場所等について、職員が避難経路を明確にして避難場所へ避難すること、また、災害時に通信が遮断される恐れがあることも想定し、家族等にも事前に避難経路及び避難場所を周知しておくことが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を常に意識し、尊厳ある言葉使いを心掛け、安心して日常生活を送って頂けるよう心掛けている。	共用トイレに入居者のオムツ等を置いているが、一目で名前がわからないようイニシャルで表記するなど配慮している。定期的に接遇マナー研修を行い、職員が自身の接遇について振り返る機会を設けると共に職員個々のスキルアップに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動支援を行う際は、入居者様に負担がかからないような声掛けを行い、本人の意志を確認している。又、なるべく他の入居者様と関わりが持てるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを日頃から傾聴し、本人の健康状態や精神状態を考慮し対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、本人の希望を伺いながら好きな服を選んで頂き、季節感やTPOにあわせた服装になるよう心掛けている。定期的に訪問美容を利用し、カットだけでなく、カラーを希望される方には、ホーム内でして頂けるようにしている。又、行事や外出時は化粧も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの食事形態に合わせて提供している。彩りや盛り付け方にも工夫している。	日常的な食事について、朝食はホームで作り、昼食・夕食は外部の配食業者へ委託し提供している。ホームの裏庭に家庭菜園があり、入居者と一緒に収穫し食卓に並べている。おはぎ作りや日々の片付けなど、入居者ができる事を職員も一緒に行いながら入居者の楽しみや生きがいに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の病態や咀嚼、嚥下状態にあった食事形態や食事量を全職員で把握している。食事が入らない場合、エンシュアや本人の食べやすい物で栄養補給を行っている。トロミが必要な方に関しては、その方にあったトロミ粉の量で調整している。又、脱水予防の為、お茶だけでなくアクエリアスや甘い飲み物、ゼリー等を提供し、一日の水分量に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを個別で行い、歯間ブラシなども使用し、職員が仕上げ磨きも行っている。夜間は、入れ歯洗浄にて消毒している。歯科医が必要な方は協力医に往診に来て頂き義歯の補修や口腔ケアの指導、虫歯治療なども行っている。又、ご家族の意向に伴い、場合によっては、かかりつけ医による外来受診、治療も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別での排泄誘導や、排便の状態を把握している。又、ズボンの上げ下ろし等、残存能力を活用して頂けるような声掛けを行い、その方にあった介助、ADLの保持に努めている。	職員は排泄チェック表を活用して入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に誘導することでトイレで排泄ができるよう支援している。日常的な業務の中で、入居者の状態に応じた排泄が可能となるよう職員同士が意見交換し、使用具の検討や見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳を提供し、便秘の方にはヨーグルトなど乳製品や水分補給を促している。汁物などにも食物繊維が多く入った材料で工夫を行っている。又、日々運動の機会を設け、体操や歩行訓練を行っている。排便コントロールが必要な方には下剤も服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を実施している。入浴日でない日も本人の希望があれば状況に応じて行っている。季節に応じて菖蒲や柚子湯など実施しており、季節を感じて頂ける取り組みも行っている。入浴がない日も足浴を行い皮膚状態を観察している。	入浴は週2回を原則とし、入浴の拒否が強い方には時間や日にちを変え、適宜声掛けを行っている。入居者の皮膚の状態に合わせ、石鹸等を変えている。菖蒲湯やゆず湯など、入浴を通して季節を感じてもらえるような工夫を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い方には、短時間の午睡を促している。又、夜間も良眠して頂くように、昼夜逆転を防ぐ為、日中は家事手伝いや、レクレーション活動等も積極的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前薬、朝、昼、夕、眠前薬の薬箱を分け、誤薬がないように服薬マニユア通りに本人の名前、日付、いつの薬かを本人と、他職員に確認しながら、声に出して与薬している。受診時には、本人の状態の変化に伴い、薬等の変更がある為、その都度、カルテや申し送りノート等に記載し、全職員で再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時にバックグラウンドを作成し、普段の会話の中で本人様が好きな事などを話題にあげている。又、カラオケやレクレーション活動、畑仕事が好きな方には、職員と一緒に取り組み、役割や楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されてからは、少しずつ様子を見ながらドライブや外出の計画等を立てている。又、ご家族対応でお墓参りや病院受診、美容室等の外出も行っている。	ホームに畑や花壇があるため、畑に行ったり、花の水やりをしたりと日常的に外出の機会を設けている。コロナが5類に移行したことに伴い、ドライブや花見にも出かけている。また、行きつけの美容室に行くなど外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは、入居者が金銭を持っている方はいない為、必要なものがあれば、ホームで立替えて購入し、毎月の請求時にご家族様に支払ってもらっている。財布やお金に執着されている入居者様には、事務所で預かっているなど、本人が安心できるような声掛けや対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名、携帯電話を持って折り、就寝前に居室でご家族に電話をかけている。他の入居者様もご家族から電話があれば会話して頂いている。又、季節折々、入居者直筆でハガキを書いて頂き、ご家族に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くため、壁面を使い、季節折々の花やイラスト等を使った壁飾りを作成し提示している。又、居室入口には入居者様と担当職員の写真を提示している。廊下や洗面所、浴室の気温差が無いよう、温度計を設置し定期的に換気を行う等や臭いの対策を行っている。	共用スペースは毎日朝夕に掃除を行っており、1日3回は消毒を行い、清潔が保たれている。壁面には入居者と職員が一緒に作成した季節の飾りつけがあり、室内でも季節を感じられるよう工夫している。共用スペースに温度計を設置し温度差に留意すると共に、定期的に換気し、臭い対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのあるリビングでは、気の合う入居者様同士が隣り合わせになるよう席順を決めている。又、不穏であったり、歩行が不安定、傾眠気味な入居者様に関しては、職員の目が届く範囲で過ごして頂いている。テーブル席で塗り絵や計算問題、紙切り等、気の合う入居者様同士で会話しながら楽しんで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、自宅から本人の馴染みの物を持ち込んで頂いたり、家族写真や花など、本人が落ち着くような装飾品を飾っている。又、誕生日会に担当職員からのプレゼントや色紙、本人が作成した物なども提示している。	居室は共用スペースと同様に毎日朝夕に掃除を行っている。また、担当者が定期的に居室にある物品等の整理を行っている。備え付けベッドがあり、その他の家具などは使い慣れた物を使用しており、入居者にとって落ち着きのある空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内では、入居者様の状態に合わせ、ベッドやダンス、ポータブルトイレの位置を設置している。体圧分散マット等も必要に応じて使用して頂いている。ベッドからスムーズに起き上がりが可能なようにPバーも利用している。又、廊下や共同トイレ、洗面所等にも手すりを付けている。		